

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注)	No.	タイトル	自治体名
	59	わかりやすい健康情報の提供による市民が主体の健康づくり	宇部市
アイデア名 (公開)	がん検診受診率向上のための情報提供の工夫		

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	山口大学医学部		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
代表者情報	氏名 (公開)	大崎崇正	

※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

(注意書き)

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

<公開非公開など>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。
5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

<チームメンバー名簿>

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア（公共サービス）のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれがする、何を、どこです、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

宇部市の肺がん検診および子宮がん検診の受診率の向上を目指し、わかりやすい検診の案内やチラシ、ポスターなどによって、市民が自ら受診しようとするような情報提供のあり方を検討した。

まず、市はがん検診の案内を市民に毎年度送っているが、数多くのがん検診の情報や受診券を一まとめにして送るのではなく、がんに応じた情報提供を行って、特にハイリスクの人が受診行動を起こすような啓発を図るべきだと考えた。また、例えば、ある年齢を対象にした無料クーポンなどは、ただ単純に対象の市民に案内を同時発送するのではなく、受け取る側がより確実に内容を確認するよう、見た目や発送時期の工夫ができないかを考えた。

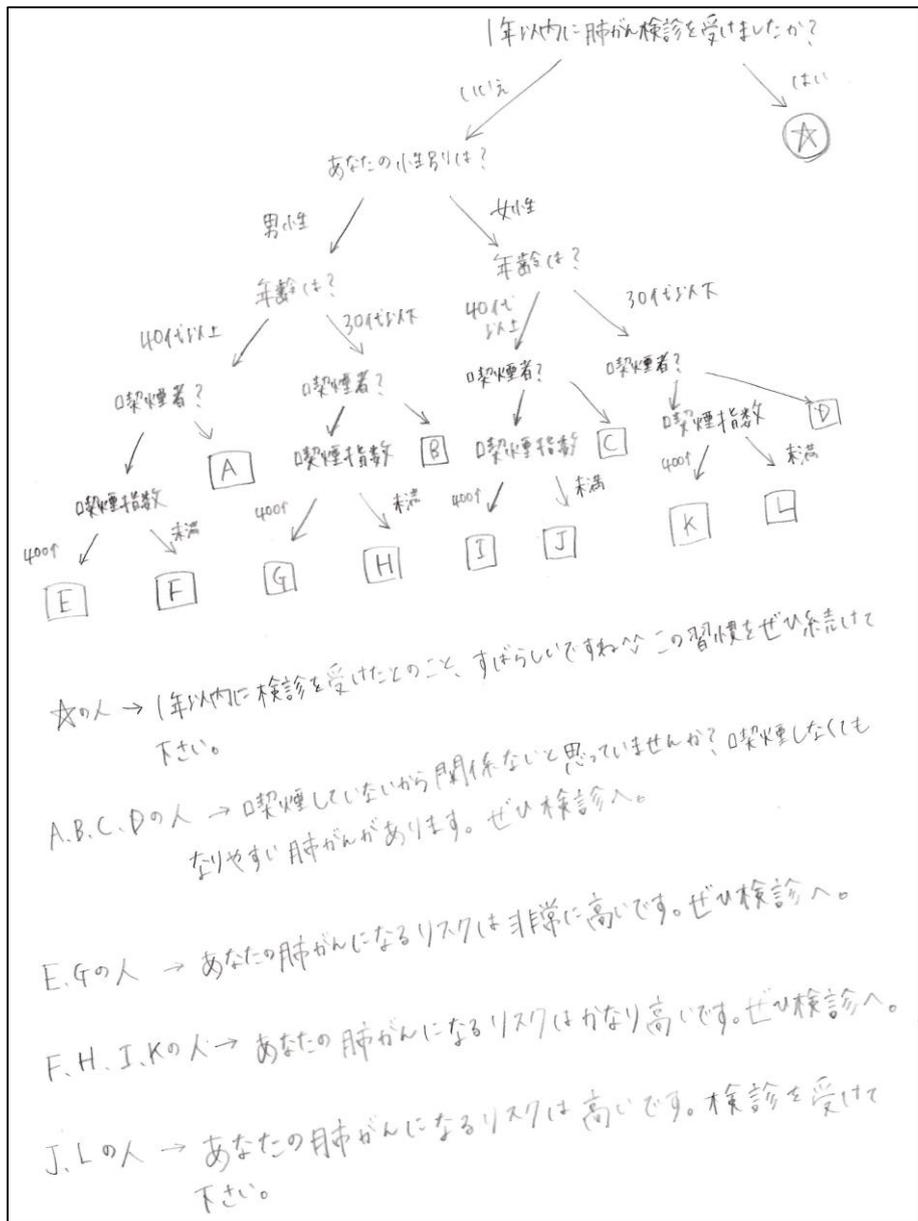
(1) 肺がん検診

肺がんのリスク要因として喫煙が挙げられ、市は、喫煙指数（1日の喫煙本数×喫煙年数）などによる右図のようなフローチャートを作成し、該当するリスクに応じた受診の呼びかけを付けた肺がん検診の案内を年度の早い時期に市民に送付する。

このフローチャートは、検診案内だけでなく、チラシやポスターとして公共施設や医療機関、職場、学校などで配布する。受け取った市民は家族や友人にこの情報を伝え、誘い合せて検診を受診するなど、行動変容が広がるようにする。

(2) 子宮がん検診

市は、20歳女性を対象にした子宮頸がん無料検診の案内を送付する際、誕生日月を無料対象期間とし、その1~2ヶ月前に20歳女性が目を引くかわいい葉書で通知する。



(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の2ページの欄内におさまるようお願いいたします。

我が国における死亡の現状として、悪性新生物（がん）が一貫して増加傾向であり、昭和56年以降ずっと死因の第1位を占めている。平成27年の全死亡に占める割合は28.7%で、3.5人に1人はがんで死亡している計算になる¹⁾。そのような中、国の健康増進における基本方針を示した「健康日本21」で、がん対策の目標として、がん検診の受診率の向上が掲げられている²⁾。今回、宇部市の「わかりやすい健康情報の提供による市民が主体の健康づくり」を考えるに当たって、がん検診の受診率向上をテーマとした。

平成26年に行われた宇部市のがんに関する市民アンケートで、「がん検診はがんの早期発見、早期治療につながる重要な検査だと思いますか」という質問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた人が93.8%で、「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」と答えた人は4.4%のみであったが、「がん検診を受けたいことがありますか」という質問で「受けたいと思っているが受けていない」が23.0%、「受けたいと思っておらず、受けていない」が10.9%と、合わせて3分の1の人ががん検診を受けたいことがなかった³⁾。がん検診の意義はすでに広く認識されており、今は実際に受診という行動に結びつくための施策が求められている。

(1) 肺がん検診

まず、国立がん研究センター・がん情報サービスの「最新がん統計」で、2014年に男女計で死亡数が最も多かったと報告されている⁴⁾ 肺がんを取り上げることになった。同じ「最新がん統計」で、2012年の肺がんの罹患数（新たにがんと診断された数）は、男女計で、大腸がん、胃がんに次いで3位であり⁴⁾、「肺がんは、かかる数は3位なのに、死亡数は1位」ということになる。がんによる予後に違いがあるとはいえ、肺がんは早期発見・早期治療が十分にはできていないがんのひとつと言え、肺がん検診の受診率向上によって、死亡の減少が期待できる。

やまぐち健康マップによると、平成26年の宇部市の肺がんによる死亡率（人口10万対）は男性が101.0で、山口県の97.1、全国の86.0よりも悪く、女性は39.4で、山口県の39.5とほぼ等しいものの、全国の32.4よりも悪かった⁵⁾。宇部市の全がんによる死亡のうち、男性は26.9%、女性は13.9%を占めていた⁵⁾。平成22年から26年までの5年間の標準化死亡比（SMR）で見ても、男性が101.1、女性が107.0と県全体と比較して高く⁵⁾、宇部市は肺がんによる死亡が比較的多い市と言える。

宇部市の平成26年度の肺がん検診受診率は19.9%で、山口県の11.6%、全国の16.1%に比べて高い⁶⁾。しかし、肺がんによる死亡が多い現状を考えると、さらなる受診率の向上と共に、ハイリスクの人にこそ肺がん検診を受診してもらう必要がある。

肺がんのリスク要因として喫煙が挙げられ、喫煙者の肺がんリスクは男性で4.8倍、女性で3.9倍とされている⁷⁾。喫煙指数（1日の喫煙本数×喫煙年数）が400を超えると、たばこを吸わない人に比べ、肺がんの罹患リスクが4.5倍になると報告されており⁸⁾、肺がん検診では、喫煙指数が400もしくは600以上の人に喀痰検査を併用するよう勧められている。

以上より、ハイリスク者を中心に肺がん検診受診者が増えることを期待して、喫煙指数などによるフローチャートを作成し、該当するリスクに応じた肺がん検診受診の呼びかけを付けることを考えた。このフローチャート+呼びかけを検診案内やポスター、チラシに掲載することで、現在使用されているもの⁹⁾よりも目を引き、受診行動に結びつける効果が高まると思われる。さらに、情報を受け取った市民自らが今度は情報の発信者となって、お互いが誘い合って検診を受診するなど、行動変容に結びつける。

2) 子宮がん検診

次に、子宮がん検診を取り上げた。国立がん研究センター・がん情報サービスの「年次推移」によると、子宮頸がんは死亡、罹患とも増加している¹⁰⁾。子宮頸がんは20歳代後半から30歳代後半まで増加した後横ばいになり、70歳代後半から再び増加するが、罹患率、死亡率とも若年層で高くなっている¹¹⁾。

宇部市の平成26年度の子宮がん検診受診率は36.1%で、山口県の35.5%、全国の32.0%に比べて高い⁶⁾。しかし、やまぐち健康マップによると、平成26年の宇部市の子宮がんによる死亡率（人口10万対）は15.8で、山口県の11.6、全国の10.0よりも悪く、宇部市の全がんによる死亡のうち5.6%を占めていた⁵⁾。平成22年から26年までの5年間の標準化死亡比（SMR）で見ても107.0と、県全体と比較して高かった⁵⁾。宇部市では、子宮頸がんへの対策も強化する必要があり、そのひとつとして、特に若年層の子宮がん検診の受診率向上に向けた方策を検討した。

子宮頸がんに関して、宇部市では20歳女性を対象に無料検診を行っているが、自分達を考えてみても、無料検診の案内を受けた記憶がなかったり、案内の封筒が届いたが開封せずに捨てていたりした。手に取り、内容を確認しやすくするために、案内を封筒ではなく葉書にすること、20歳女性が目を引くようなデザインにすることなどを検討した。また、販売店などによるダイレクトメールの手法を参考に、誕生日を無料対象期間とし、その1～2ヶ月前に通知が届くように送付するという方法も考えた。

<参考>

1) 厚生労働省 平成27年人口動態統計月報年計（概数）の概況 結果の概要

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai15/index.html>

2) 厚生労働省 健康日本21 目標項目一覧

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkouippon21/kenkouippon21/mokuhyou.html

3) 宇部市 がんに関する市民アンケート報告書（平成26年度実施）

<http://www.city.ube.yamaguchi.jp/kenkou/iryuu/gantaisaku/questionnaire.html>

4) 国立がん研究センター がん情報サービス がん統計 最新がん統計

http://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html

5) 山口県健康福祉部 健康やまぐちサポートステーション やまぐち健康マップ(平成28年度作成)

<http://www.kenko.pref.yamaguchi.lg.jp/jouhou/data/map-index.html>

6) 平成27年度宇部市保健事業実績

7) 国立がん研究センター がん情報サービス それぞれのがんの解説 肺がん

<http://ganjoho.jp/public/cancer/lung/index.html>

8) Sobue T et al. Cigarette smoking and subsequent risk of lung cancer by histologic type in middle-aged Japanese men and women: the JPHC study. Int J Cancer. 2002; 99: 245-51.

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/11979440>

9) 宇部市 平成28年度各種健診・検診案内チラシ・リーフレット

10) 国立がん研究センター がん情報サービス がん統計 年次推移

http://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/annual.html

11) 国立がん研究センター がん情報サービス がん統計 部位別がんの統計情報

http://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/site.html

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

市民に対して発信される健康情報は、これまで行政や専門機関が作成・配布し、市民はただ受け取るだけだったが、作成・配布の段階から市民が自らの視点を持って積極的に関与し、協働で作り上げる。

（1）肺がん検診

① フローチャート・呼びかけ内容（案）の作成

市健康推進課、医師会といった専門機関が医学的に正しいフローチャート・呼びかけ内容（案）を作成する

② フローチャート・呼びかけ内容の完成

学生や市民が、①のフローチャートや呼びかけ内容（案）をよりわかりやすく、より目を引くように修正し、完成させる

③ 市民への周知

市が肺がん検診の案内やチラシ、ポスターとして市民に送付し、市民はお互いに誘い合ったりして周囲の人に情報を拡散する

（2）子宮がん検診

① 葉書（案）の作成

市健康推進課、医師会といった専門機関が医学的に正しい内容で原稿を作成し、デザインの専門家が葉書（案）を作成・検討する

② 葉書の完成

学生や市民が、①の葉書（案）をよりわかりやすく、より目を引くように修正し、完成させる

③ 市民への周知

市が子宮がん検診の案内として、対象の市民の誕生日月の1～2ヶ月前に送付し、市民はお互いに誘い合ったりして周囲の人に情報を拡散する

(4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的に xx という制約をクリアできれば、追加で○○ということが実現できる」など）について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

アピールポイントとしては、全くの新規の事業ではなく、既存のがん検診という事業の改善案であり、実現可能性が高いアイデアであることである。また、がん検診は全国全ての自治体で行われており、受診率向上は国も掲げる目標であるが、これまでに明らかな成果を上げた事例はなく、宇部市で成功すれば、他の市町村への拡大が期待できる。

今回、肺がん検診と子宮がん検診を取り上げたが、肺がん、子宮がんで成功を収めれば、他のがん検診にも同様のアイデアで改善を図ることができる。さらに、がん検診だけでなく、一般健康診断や特定検診、人間ドックなどにも同じアイデアが活かせるかもしれない。

ただし、費用対効果の検証は必要であり、そのためにも全てのがん検診を一斉に変更するのではなく、まずは肺がん、子宮がんを先行させ、評価を行うことが大切である。